

医師会の皆様へ

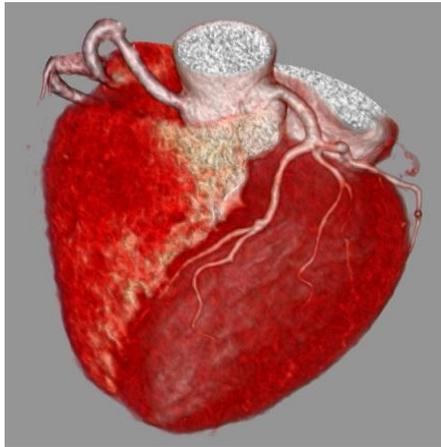
CT: 検出器性能が向上しました

今回はバージョンアップにより、検査時間短縮と画質の向上を実現した心臓CT検査についてご紹介します。

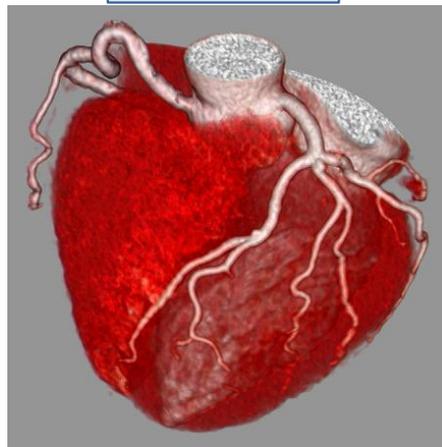
1 スライス枚数の増加(64枚⇒128枚)

- ① 息止め時間は従来の半分になり患者様にやさしくなりました。
- ② 心臓CT検査では使用する造影剤を3割以上削減でき、患者様の負担の軽減に繋がります。
- ③ 更により詳細な画像情報を提供できます。

造影剤3割削減



従来の検出器



新しい検出器

同一患者様の心臓VRT画像

末梢血管の描出がよくなりました

2 冠動脈プラークの性状評価

- ① プラーク部の詳細なCT値計測が可能となりました。
- ② 性状評価を行う上で重要な指標となっています。  
目安として、\*CT値30以下:ソフトプラーク(脂肪性)、30~150:繊維性プラーク、150以上:石灰化とされています。  
(文献により数値にオーバーラップがあります)

症例(主治医カルテ記載より): 前回(2016年)に比べCT値が上昇し、LAD#7のプラークは安定化(23→60に上昇)



冠動脈プラークの積極的脂質低下療法の効果判定にも、CTが有用です。  
(積極的脂質低下療法: スタチン投与によりプラークが安定化する)

\*参考文献: J-Stage「冠動脈プラーク性状評価」元山貞子(藤田保健衛生大学 循環器内科)

【造影CT検査における当院での取り決めについて】

1: 腎機能

当院ではeGFR値が45以下の場合造影剤使用できません。過去半年間のクレアチニン値があればお知らせください。



2: 糖尿病治療薬

当院で造影CTを行う場合、原則として検査日の前々日~検査日翌々日までの5日間においてビグアナイド製剤の中止が決められています。

\*CT・MRIの機能や撮影画像について、情報提供を定期的に行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

不明な点がございましたら、放射線部までご連絡をお願いいたします。

コスモス病院 放射線部  
放射線部直通番号 86-5232